

名古屋芸術大学グループ 通信

49
October
2019



【特集】音楽領域 ワールドミュージック カルチャーコース誕生

世界の音楽を、
新しい音楽へ
東海地方初

【特集2】
第7回二輪デザイン公開講座

News/Topics

- ニュース&トピックス
- 大学総合
- 官民学合同説明会&交流パーティーを開催
- 芸術教養領域
- 「芸術教養レビュー」選抜展を開催

Close up! NUA-ism

~進化する「名古屋芸大」のDNA
NUA-OB
誰だって できる時代 呂布カлма
NUA-OB
アーティスト的な発想とセンスも必要
古川貴朗

Feature

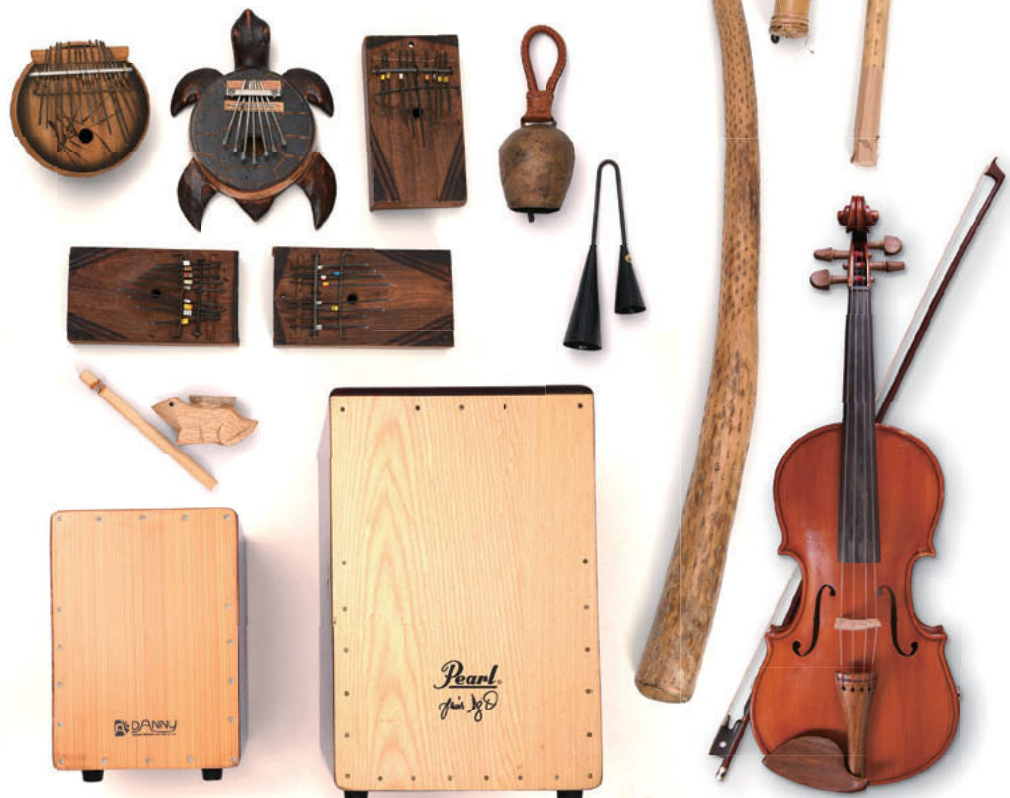
NUA-Student
芸術学部芸術学科 音楽領域
音楽総合コース 2年生 稲熊悠人

Master Artist

マスターアーティスト
合う、離れる
デザイン領域 メタル&ジュエリーデザイン 准教授
米山より子

Information

- インフォメーション
- 2019年度 オープンキャンパス日程
- 2019年度 音楽領域演奏会スケジュール(予定)
- アート&デザインセンター
2019年度 展覧会スケジュール(予定)
- 平成30年度名古屋大生
夢サポート募金について





世界の音楽を、新しい音楽へ
東海地方初

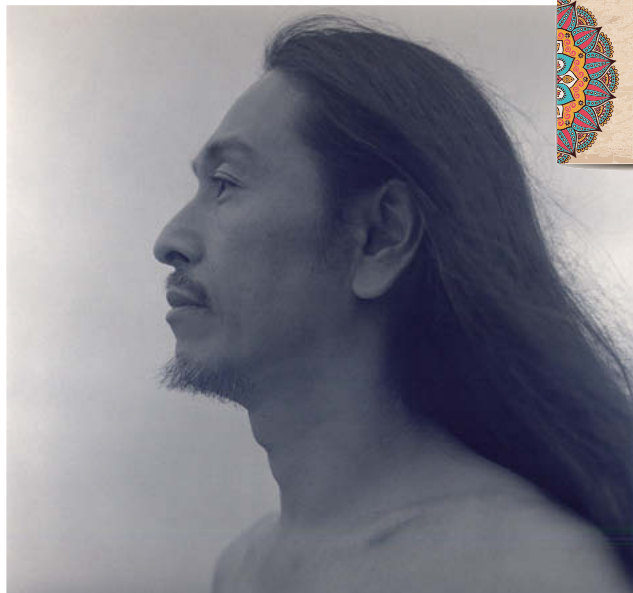


【特集】音楽領域

ワールドミュージック・カルチャーコース誕生

2020年4月、音楽領域に新たなコース「ワールドミュージック・カルチャーコース」を開設します。世界には、先人たちが遺し継承してきた、さまざまな楽器と素晴らしい音楽が存在します。そのような音楽と文化的背景をリスペクトしながら「今を生きる我々の音楽」を創造することが求められています。ワールドミュージック・カルチャーコースでは、さまざまな民族楽器の演奏技術を学びつつ、その楽器によって奏でられる音楽、さらにその音楽の背景にある文化や社会についても学びます。また、多彩な音楽ジャンルとのコラボレーションにも取り組み、さらにはその文化的背景について造詣を深めることで新しいワールドミュージックのあり方を探求します。





民族音楽に 音楽の未来がある



特別客員教授
岡野弘幹



※11月7日(木)、12月5日(木)に、岡野氏の公開講座が行われます。詳細は近日、本学ホームページにて公開予定です。ふるってご参加ください。

ルに出演することになりました。それまでJ-POPを作っていた人間が、ヨーロッパに行くことになり、グラストンベリー・フェスティバルに行ったら、世界中からミュージシャンが集まっている。新しい楽器も集まっており、そこでいろいろな実験が繰り返されている。その中に、突然放り込まれたわけです。そこでまた非常に大きな衝撃を受けました。

ワールドミュージックとはどういうものなのかということを考えるのですが、その凄さは、アフリカの音楽とトルコの音楽、中東の音楽、地中海全体の音楽が一つになったりすることです。それまでにあった音の既成概念だけに縛られるのではなく、その外側に出ていこうとする。そうした中から感動というものは生まれます。いろいろなジャンルのミュージシャンが混ざり合うことで新しいカテゴリーの音楽がたくさん生まれましたし、それを実際に当事者として体験することができました。音楽の可能性はまだまだあるということを僕らに教えてくれています。

西洋音楽が日本に入ってきて以来、西洋音楽が音楽であるという認識になっています。でも、音楽の世界はそれだけではありません。その認識を越えていききっかけのようなものが提案できればと思います。そういうところに音楽の未来があるかもしれないと考えています。そういう可能性を持っているのが民族音楽だと思います。芸術大学の役割として、優れた演奏家を育てるということも大事ですが、同時に優れたアーティストの感性を育てていくことも大事です。これからの若者が進んでいく道の一つとして、幅広く音楽を捉え、異なった文化が会うことで新しい音楽が生まれるという意識を持ってもらうことができれば、日本の音楽の未来は明るいのではないかと考えています。

一般的な音楽の捉え方は、12音階の中で構成されるもの、そういう認識だと思います。ところが民族楽器の場合は、その12音階に収まらない音もあります。そういうものも含めて、音であり音楽である。こういう認識を持ってもらうことができれば、とても意味のあることではないかと考えています。

僕自身、J-POPの制作に係わる仕事をしてきました。TV CM、ラジオ、テレビ番組のサウンドディレクター、またいろいろなアーティストのレコーディングサウンドディレクターとして仕事をしてきました。あるとき、日本のレコード会社でデビューしたあるミュージシャンを、イギリスのレコード会社からもデビューさせることになりました。日本で決められたコンセプトに従い、音を作り込んでイギリスへ向かいました。現地で、イギリスのプロデューサーに聞かせたところ、彼からこんなことをいわれました。「日本人の作る音楽は、何でこんなに物真似が上手なんだ」と。当時、ニューウェーブやパンクがすごく広まった時代でもあり、僕らはそういうニューウェーブやパンクの感じがするものを精いっぱい作り上げて持っていったわけです。自分たちではカッコ良い素晴らしい出来だと思っていたのですが、当のイギリス人からすると物真似としか聞こえていなかったわけです。

彼は「日本から来るポップス、アジアのミ



ュージシャンが作る音楽が僕たちと同じものなの？ 本当は自分たちの音楽があるんじゃないのか」というんです。その言葉を聞いた瞬間、非常にショックを受けました。それで、日本に帰ってきて、日本古来のメロディーライン、ししおどしの竹が落ちる音であるとか、そんな音をどんどんサンプリングして、日本人が感じる日本の音を探し始めたわけです。

そうやってアルバム1枚分の音を作り、世界中のレコード会社に送りました。日本では相手にされませんでした。ドイツの会社が非常に興味を持ってきて、すぐにドイツへ来てくれと連絡が来ました。10年契約の契約書を作って待っていて、その場で契約することになりました。その後、10枚のアルバムをリリースしましたが、その間に、イギリスの音楽プロデューサー デイブ・グッドマン (Sex Pistolsなどをプロデュース) から連絡が来て、グラストンベリー・フェスティバ

■ コース担当教員



岡野弘幹

サウンドアーティスト
特別客員教授

1964年生まれ。民族楽器を多彩に扱い、日本的感性で表現したアンビエントミュージックは欧米のメディアでも広く紹介され、30作以上のアルバムを発表。ライフワークとして世界の聖地、自然遺産、全国の著名社寺などで演奏活動を行う一方、作曲家としてサウンドアート制作、映画・テレビ番組などへの楽曲提供を行い、さまざまなイベントの音楽監督としても活動。



張濱 (チャン・ビン)

二胡
客員教授

中国遼寧省出身。1992年来日し、名古屋芸術大学、愛知県立芸術大学で学ぶ。2005年にチャン・ビン二胡演奏団を結成。愛知万博、上海万博出演。中国 CCTV ドキュメンタリー放送。天津、北京、南京など中国各地で友好音楽会を主催。名古屋観光文化交流特命大使、江蘇省海外交流協会高級顧問など日中の懸け橋として活躍中。



野村祐子

箏曲・三絃
客員教授

箏曲作曲・演奏家の両親のもと3歳で初舞台。14歳で箏・十七絃二重奏曲「白い花に寄せて」を発表。自作の90余曲を公刊・CD化。以来、数多くのリサイタルやコンサートを開催。野村正峰作品のソリストとして各地の演奏で流派を超えた作品を広めるほか、オーケストラとの共演、NHK FM 放送・TV「芸能花舞台」出演、長栄座の指導、作曲などで幅広く活動。



野村峰山

尺八
非常勤講師

1957年三重県生まれ。人間国宝・山本邦山師に師事。高校在学中に都山流尺八本曲コンクール全国大会で金賞を受賞。尺八リサイタル、峰山会「竹の響き」コンサート、NHK TV・FM 放送、オーケストラとの共演など国内外で活躍。文化庁芸術祭賞、芸術祭レコード部門優秀賞、愛知県芸術文化選奨文化賞、名古屋市民芸術祭審査員特別賞、都山賞など多数受賞。



三上賢治

ディジュリドゥ
非常勤講師

1993年にディジュリドゥと出会い、写真家からディジュリドゥ奏者へと転身。2000年にソロ活動を開始。同年 Avalon Spiral/アバロンスパイラルを設立。ディジュリドゥの本場オーストラリア・ノーザンテリトリー州で学び、アボリジナルネーム「Wulang」(「Ocean、大洋、海」の意)を授かる。アボリジナル文化を伝える演奏や講演、ワークショップを展開。



高橋 誠

ジャズバイオリン
非常勤講師

ヨーロッパの民族音楽をベースにオリジナルの世界を繰り広げるジプシー系バイオリニスト。クラシックの高いテクニックとジャズの即興性を兼ね備え、ジプシー音楽の情熱、悲しみ、喜びを表現。日本国内ではまだ数少ないジャズのインプロビゼーション(即興演奏)奏者。演奏活動のほかに作曲・編曲活動も行っており、オリジナル作品への評価は高い。



中村 岳

カホン・パーカッション
非常勤講師

1981年に「mar-pa」(マーパ)にパーカッションニストとして加入し、多数のジャズフェスティバルに出演、CM音楽や映画、ビデオなどの音楽を担当。1992年からは「風の楽団」(Wind Travelin Band)のメンバーとしてアルバムリリースのほか、欧米ツアーにも参加。日本に数少ないフラメンコのカホン奏者として、さまざまなジャンルのライブや録音に参加、活動中。



荒川琢哉

ラテンパーカッション
非常勤講師

12歳で独学にてドラムを始め、16歳でラテンパーカッションに出会う。高校生としては数少ないパーカッションプレイヤーとなり、本学で学ぶ。ラテン音楽に傾倒、多様なミュージシャンとのセッションライブやイベント、レコーディングに参加。自ら立ち上げたラテンバンド「B-Style」「B-Style Big Band」でも精力的に活動中。



オープンキャンパスにて ミニコンサート開催



東海地方の大学においてワールドミュージックを専門的に学べるコースの設置は初めてとなります

演奏を学ぶ

民族楽器の実技や文化について学ぶ授業を展開し、各学生のレベルや関心に応じて教授します。世界の国々の民族音楽を知るだけでなく、実際にさまざまな民族楽器の奏法を習得します。



音楽の背景を学ぶ

民族楽器の奏法とあわせて、その音楽がどのような文化で生まれ、人々に育まれてきたかを学ぶことは重要です。世界各地の音楽の特徴や多様性を深く理解することで、民族音楽のスペシャリストとして、豊かな音楽表現や感性を身につけます。

音楽の基礎も

広く民族音楽を理解するために、音楽の基礎理論を身につけます。その上で、アレンジやインプロビゼーション（即興演奏）、録音などについても学び、これからの時代の、新しいワールドミュージックのパイオニアを目指します。



多彩なジャンルとのコラボ

名古屋芸大の音楽領域には、専門コースだけでも12コース（※）あり、さまざまなジャンルとのコラボレーションが期待できます（※2020年4月予定）。さらには、学部・領域の垣根を越えて、例えば、あなたのライブ演奏で、デザイン領域とコラボしてデジタル映像による演出を行うなど、表現の可能性は無限大です。



キャリアサポート

名古屋芸大では、グローバルに広く活躍するために、キャリア教育や語学、留学のサポートに力を入れています。また、専門性を磨きながら、美術やデザインなど他分野も横断的に学ぶことができる特徴的なカリキュラムで、将来の可能性を大きく広げられます。音楽関係はもちろん、一般企業への就職もサポートします。

初心者でもOK

楽器の経験がない場合でも初歩から丁寧に指導していきます。民族音楽に興味はあっても楽器演奏は初めてという方でも安心です。

カリキュラム

▶ 合奏（セッション）

民族音楽・楽器はもちろん、ポップス、ロック、ジャズなど、他のジャンルとも融合したセッションを行い、新しい音楽の創造を目指します。

▶ 録音音響デザイン研究1・2

録音・音響の基礎的な技術や知識を身につけることで、音楽制作のスキルを高め、音（サウンド）に対する理解を深めます。

▶ 音楽表現実技Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

専門とする楽器の実技レッスン、プロ奏者による個別レッスンで、より高いレベルの演奏技術を身につけることが可能です。

▶ 器楽基礎研究1・2（民族楽器）

▶ 器楽応用研究1・2（民族楽器）

▶ 芸術文化論／サブカルチャー論 など

さまざまな民族楽器の背景となる文化や歴史、ルーツなどを学ぶことで、民族音楽をより深く探究します。また、民族音楽・楽器だけでなく、同時代のそのほかの音楽にも視野を広げて比較したり、流行や思想などその時代ごとに息づいていた文化を知ったりすることで、これらの民族音楽・楽器のあり方を考えます。

■ 将来の就職分野

演奏家・プレイヤー、
教員、ソングライター、
アレンジャー、作曲家、
音楽講師、音楽/芸術
関連企業、一般企業

■ 学納金（予定）

	2019年10月現在	
	1年次	2年次以降
入 学 金	200,000円	—
授 業 料	1,325,000円	1,325,000円
教育充実費	300,000円	300,000円
実 習 費	140,000円	140,000円
合 計	計 1,965,000円	計 1,765,000円

※カリキュラムの内容については現在検討中であり、今後、変更となる場合があります。

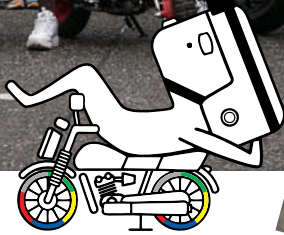
8月17日（土）オープンキャンパスで、ワールドミュージック・カルチャーコース教員らによるミニコンサートを開催しました。ジャズバイオリン 高橋誠（ワールドミュージック・カルチャーコース）、ピアノ 林祐市（ポップス・ロック&パフォーマンスコース）、ベース 長

谷川英喜、カホン・パーカッション 荒川琢哉（ワールドミュージック・カルチャーコース）というメンバーで3曲を披露。「情熱大陸」など、ラテンのフレーバーが加えられた楽曲に、会場は大いに盛り上がりました。



Nagoya University of Arts

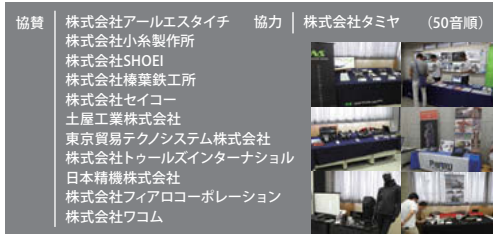
School of Design



NO MC, NO LIFE.

Motorcycle Design Workshop

第7回 二輪デザイン 公開講座



協賛 株式会社アールエススタイチ 協力 株式会社タミヤ (50音順)
 株式会社小糸製作所
 株式会社SHOEI
 株式会社機業鉄工所
 株式会社セイコー
 土屋工業株式会社
 東京貿易テクノシステム株式会社
 株式会社ツールズインターナショナル
 日本精機株式会社
 株式会社フィアロコーポレーション
 株式会社ワコム

2019年8月22日(木)、23日(金)の2日間にわたり、名古屋芸術大学カーデザインコースと、公益社団法人自動車技術会デザイン部門委員会の共同で、第7回「二輪デザイン公開講座」が本学西キャンパスで開催されました。

この講座は、自動車技術会デザイン部門委員会が毎年開催しているもので、今年で7回目になります。デザインを学ぶ大学1、2年生を対象に、モーターサイクルデザインの魅力を体験するワークショップです。講師は、ホンダ、ヤマハ、スズキ、カワサキの4メーカー、さらにヘルメットメーカーの株式会社SHOEIや、2輪パーツ製造メーカーの株式会社小糸製作所、日本精機株式会社など協賛企業に勤めるデザイナーやクレイモデラーが担当。企業の第一線で活躍するプロから直接デザインの指導を受けることができる貴重な機会です。2日間で全国

の大学から31名の学生が受講しました。

2日間にわたるプログラムは盛りだくさんの内容で、元GKダイナミックス相談役で数多くのヤマハバイクをデザインしてきた一条厚氏の基調講演に始まり、現役のデザイナーがその技術を見せる「二輪デザインプロ技(ワザ)講座」、さらに「デザイナー/モデラーの卵養成講座」として、各メーカーのバイクの紹介、協賛企業による機能部品講座などのプレゼンテーションが行われ、「マーカースケッチ」「デジタルスケッチ」「クレイモデリング」「カラーリング(CMF《カラー・マテリアル&フィニッシュ》)」それぞれのワークショップをすべての学生が体験できるようにプログラムが用意されました。

講演に先立ち、X棟3階で開会式を行いました。自動車技術会デザイン部門委員長、ヤマハ発動機

株式会社 田中昭彦氏より開会が宣言され、プログラムが始まりました。参加する学生はあらかじめ8名ごとに4つのグループに分けられ、グループ単位でワークショップを受講することになります。事前に支給された、グループごとに色の違うTシャツに着替える準備万端です。2日間の日程や注意事項の説明を行う中にも、和気あいあいとした雰囲気があり、講師陣からも新しい学生を迎える期待と喜びが感じられました。

開会式が終わると参加者らは、最初のプログラムである基調講演のために、B棟2F講義室へ移動しました。講演は公開講座となっており、ワークショップへ参加する学生以外にも広く公開されており、自動車メーカーや関連する企業などから多くの聴衆が訪れました。一条厚氏の講演の演題は「バイクデザインは面白い バイクは素敵だ」で

すが、基調講演ならぬ「基調漫談」となっており、ユーモアを交えつつ一条氏ががかかわってきたオートバイの世界、さらに広くデザインの世界の魅力を語る内容でした。バイクは、クルマに比べて利便性は低く不自由なものであるがゆえに、豊かな人生にはなくてはならないものと捉え、バイクに乗ることやデザインをすること、また海外で出会ったユーザーやバイクの使われ方など、広い見識に裏打ちされたお話は非常に興味深いものでした。「ものが愛される総熱量は、ものづくりに込めた総熱量に比例する。自分が熱量を込めれば、ただの工業製品が違うものになる」と、デザインという仕事について、厳しくも愛のあふれる言葉で説明しました。

講演の後は、X棟に移動して「二輪デザインプロ技(ワザ)講座」が開かれました。「デジタルスケッチ」「クレイモデリング」「カラーリング



一條厚氏「基調漫談」[バイクデザインは面白い バイクは素敵だ]



ワークショップ「マーカースケッチ講座」



ワークショップ「カラーリング講座」



プロ技講座「デジタルスケッチ」



協賛企業のデザイナーによる講座も開催されました



プロ技講座「カラーリング (CMF)」



ワークショップ「クレイモデル講座」



ワークショップ「デジタルスケッチ講座」



プロ技講座「クレイモデリング」



昼食の会場では、講師陣に積極的に質問する参加者や学生の姿も



閉会式では、参加者のためにサインをするデザイナーの姿もありました

(CMF)」の3つの仕事について、現役のデザイナー・クレイモデラーが、普段の業務で行っていることをそのまま披露しました。「デジタルスケッチ」ではホンダのデザイナー、「クレイモデリング」ではスズキのモデラー、「カラーリング (CMF)」ではGKダイナミックスのデザイナーがそれぞれの仕事内容を紹介しました。それぞれ20分間ずつと短い時間ですが、その中でも熟練した技術を見ることができました。この講座で実演されたことの基本的な部分は、ワークショップで行う内容とも重なり、参加者たちはメモをとったり、スマートフォンで撮影したりするなどして熱心に聞き入っていました。

昼食は、学生食堂に移動してそれぞれでとる形でしたが、講師陣や一般参加の方々も学生と一緒に食事ができるようになっており、和やかなムードとなりました。

昼食までは一般公開でしたが、午後の「デザイナー/モデラーの卵養成講座」からは、学生のみが受講する本格的なワークショップになります。初めにX棟1階に集まり、各

メーカーから用意されたバイクの紹介がありました。排気量の小さなものから順にエンジンをかけ、その音の違いを体感したり、形式の違いなどを確認したりしました。貴重なレーシングモデルもあり、学生のみならず講師陣も興味津々、大迫力のエンジン音を体験しました。

1日目の午後と2日目は、ワークショップに充てられ、学生はグループごとに分かれて「マーカースケッチ」「デジタルスケッチ」「カラーリング (CMF)」「クレイモデル」のワークショップをそれぞれ1時間半ずつ体験しました。各ワークショップは、学生の技量によって初級と中級に分けられ、それぞれに講師がついて学生のペースに合わせて指導する体制が組まれました。2人の学生に1人以上の講師がつく形となり、非常に有意義な内容となりました。

「マーカースケッチ」講座は、円柱やガソリンタンクといった立体の線画にマーカースケッチで色付けをし立体感を描き出すという基本からスタートし、バイクのスケッチへと進んでいく内容です。あらかじめ用意

された下絵を手本にしながら、短時間で描き上げる練習を何度も行いました。

「デジタルスケッチ」では、ペンタブレットが配られ、あらかじめ用意されたスクーターの下絵にフォトショップで色付けを行いました。ワンステップごとに講師が説明をし、ひとりひとり自分なりの絵を丁寧に仕上げられていきました。

「クレイモデル」講座では、サンプルの燃料タンクをモデルにクレイを実際に削りました。実物のタンクを観察し、できるだけ同じになるよう作業しました。初めてクレイモデリングに挑戦する学生がほとんどで、熱心に取り組む姿が印象的でした。

「カラーリング (CMF)」講座は、「ヤマハセロー」の実車が持ち込まれ、カウルに貼るステッカーの配色を考えるものです。三題噺のように、だれがどこで何をするかという状況設定をくじ引きで選び、配色を考えます。「サーキットで注目されたい石油王」「高速道路でデートしたい大学生」など、ユニークな設定に合わせて配色を考え、カッ

ティングシートを切り、貼り付けました。

すべての講座を終えると、閉会式が開催され、全員に修了証の授与が行われました。学生の代表からは、「一生の思い出になるような機会を提供して下さい感謝します」「二輪のデザイナーを目指し頑張りたい」といった言葉がありました。また、デザイン部門委員長の田中氏からは、「真剣に取り組んでくれたことがとてもうれしく、頼もしく感じました。バイクだけでなく、乗り物全般に通じるデザインの基礎を知ってもらえたのではないのでしょうか。世界に羽ばたくデザイナーとして成長して下さい」とエールが送られました。

学生らには、お土産としてセミナールームに飾られていたデザイン画がプレゼントされ、自分の乗っているバイクのものと交換したり、それを描いた企業デザイナー本人にサインをもらったりするなど、微笑ましい光景が見られました。受講した学生同士に友情が芽生え、また学生と企業の間にも友好関係が生まれたことを実感した瞬間でした。



参加官庁・企業 (50音順)

- | | |
|-------------------|----------------|
| アイリスオーヤマ(株) | 東芝ライテック(株) |
| 愛知県警察 | TRAD 社会保険労務士法人 |
| (株)イー・ティ・イー | (株)ドルチェ楽器 |
| 海上保安庁 | 社会福祉法人 西春日井福祉会 |
| (株)河合楽器製作所 | NPO 法人ひだまりの丘 |
| KYCOM ホールディングス(株) | 防衛省自衛隊 |
| 北名古屋市府所 | 名鉄自動車専門学校 |
| コレオ(株) | (株)山登ゴム |
| (株)スペース | (株)ユーエス計画研究所 |
| ダイナパック(株) | (株)労働新聞社 |
| (株)ツーリストジャパン | (株)岩尾綜合舞台 |

官民学合同説明会 & 交流パーティーを開催

8月6日(火)、東キャンパスにて本学初めての「官民学合同説明会&交流パーティー」を開催しました。

この催しは、本学キャリアセンターの主催で行われ、北名古屋市府所、愛知県警、防衛省自衛隊などの公的機関、アイリスオーヤマ株式会社、株式会社河合楽器製作所などの私企業、合わせて20以上の出展があり、ブースが設けられ、学生が直接官庁・企業の方々から説明を受けたり、話をしたりすることができます。夏休み中にもかかわらず、就職に関心のある多くの学生が参加しました。

合同説明会に先立ち、3号館ホールにてキャリアセンター長 中川直毅教授が「企業から見た名芸大生、大学から見た名芸大生」という演題で、特別セミナーを開催しました。就職に関心のある学生に加え、説明会に参加いただいた官庁・企業の皆さまにもセミナーに出席いただき、盛況なものとなりました。

セミナーでは、有効求人倍率の変遷から今後の雇用動向について、また、働き方改革が進められ変化する労働環境と労働効率、さらに、AI(人工知能)の普及について、コンビ

ニやスーパーの自動レジやクルマの自動運転を例に、予想よりも早く普及するのではないかとの説明がありました。併せて、AIの普及により今後、人間がやるべき仕事と人間にしかできない仕事を中心になっていくと考えられ、そうした時代には、創造性や情報分析力、業務改善力、交渉力、リーダーシップ力といったビジネススキルがますます重要になっていくことが指摘されました。芸術大学には、これらの力を養うカリキュラムが用意されていること、本学の学生らが学んでいる内容が紹介され、それぞれの領域の学生がどんなビジネススキルにつながる特性を持っているかが説明されました。これからのキャリアの動向としては、本業に加え副業を持つことが一般化してくることが予想されることや、副業として収入の増加だけでなく、得意な分野でボランティアとして社会とかわかること、学生時代では叶わなかった夢の実現や自己のスキルアップとして捉えることで、豊かな生き方につながるということが説明されました。また、本学の取り組みとして、キャリアセンターの活動やWorldeaでの取



キャリアセンター長 中川直毅教授の特別セミナー「企業から見た名芸大生、大学から見た名芸大生」。参加した官庁企業の方々にも出席いただきました



り組みも紹介され、今後の社会の変化に対応していくこと、また、企業も学校も学生も、社会の動向をよく見ながら、早く感知し、早く対応していくことが何よりも大切だと締めくくられました。

セミナーの後は、2号館ホワイエにて合同説明会が開催されました。官庁・企業ごとにブースが設けられ、集まった学生に詳細な説明がされました。パンフレットや説明用の映像を用意するところも多く、座談会形式で自由に話せるブースもあり、充実した内容となりました。3年生の学生では、この説明会が初めての就職活動となった学生も多く、学生からは、複数のブースで話を聞き、自



合同説明会ではパンフレットや映像を使って説明するほか、気軽な形式で学生と面談したり、学生から相談を受けるブースも見られました

合同説明会終了後は、食堂で交流パーティー。和気あいあいとした雰囲気



分の将来やキャリアについて考える契機になったという声も聞かれました。

合同説明会の後は、学生食堂での交流パーティーとなり、官庁・企業、本学スタッフ、学生の間で歓談が行われました。官庁・企業の皆さまからも笑みがこぼれ、学生とも忌憚のない意見交換をする姿が見られ、説明会よりも一層穏やかで和やかな雰囲気印象的でした。

本学としては今回が初めての催しでしたが、今後キャリアセンターでは、毎年恒例の催しとして定着させることを目標とし、さらに多くの官庁・企業、学生に参加してもらえるよう努めていくことが確認されました。

左より、早川知江准教授、江尻千里さん、大竹菜実さん、安倍慎吾さん、茂登山清文教授



「芸術教養レビュー」 選抜展を開催



2019年7月26日(金)～8月17日(土)、本学西キャンパスB棟1Fセントラル画材跡地にて、「芸術教養レビュー」選抜展を開催しました。この展覧会は、2019年7月5日(金)～10日(木)にADセンターで行われた第2回「芸術教養レビュー」展から選ばれた作品を展示するものです。作品を展示する学生の中から、芸術教養領域3年生の安倍慎吾さん、江尻千里さん、大竹菜実さんにお話を伺いました。

安倍さんは、スマートフォンやパソコンといった情報機器と人間とのかかわりを題材にした作品や、芸術・デザインとITを使い理解しにくいものをわかりやすく伝えるための提案など、人と技術の関係にスポットを当てた作品が中心となりました。

江尻さんは、自分の好きな韓国アイドルの楽曲の韓国語の歌詞と日本語訳の違いに着目、言葉による印象の違いや、クロスオーバーすることの魅力、また言葉に頼らず伝えることなどをテーマに作品をまとめています。

大竹さんは、モノと人間と芸術の

かかわりを模索します。CDと音楽のかかわりや違法ダウンロードによる売上の減少をテーマにまとめた作品、個人的な事柄を冊子の形式にしたり、修整のできないフィルムで撮影した作品など、考えや気持ちをモノの形にした作品が展示されています。

それぞれに、メディア、言葉、モノなどを通し、芸術と社会や人間との関係を考えたり、課題を解決する提案がされたりと、改めて芸術教養領域が取り組んでいる社会と芸術の在り方というテーマが伝わってきます。

芸術教養領域を担当する茂登山清文教授は「1期生の学生たちです。こうなって欲しいというよりも、課題を投げかけていってどうなるかなと思ってやってきましたが、頼もしく成長してくれていると思っています」と評価。学生から、芸術教養は何をやっているかわからないと他の領域の学生に聞かれ、自分の興味から視野が広がり、やりたいことが一番できる領域だと反論したという話があり、それを目を細めて聞いている先生方の様子に学生たち

への信頼が感じられました。

今後、学生たちは4年生に進級し卒業論文に取りかかることになり、そのテーマの選定に思いをめぐ

らせているところです。どんな卒業研究の成果が出るか、他の領域とはひと味違うユニークなものになりそうと期待が高まりました。



安倍慎吾さん

いろんな題材がある中で、視覚的な表現を借りながら魅力を創り出していくことが面白いと感じています。ITや手を動かすことも好きで、新しいメディアを活用して現在の問題を解決したり、考えたりすることができたらなと思っています。



江尻千里さん

2年生の頃は、評論を書いていても思った通りの文章が書けず、つらくなってきて放り出したりしていました。それがだんだ

ん書けるようになってきて、ビジュアルを加えることも好きになり、今では楽しんで課題に向かっています。これまでは、人と比べて劣等感を感じたりしていましたが、最近になって、学びが自由になることの意味がなんとなくわかってきて、もっともっと頑張りたいと思うようになりました。卒業論では、言葉や文化について、実際とメディアを通したときの見え方の違いやギャップなどを考えていきたいと思っています。



大竹菜実さん

自分はデジタル機器を使って作品を作ったりしていますが、自分の中にアナログが好きな部分もあったりします。人、技術、モノのつながりに関心があるのかもと思います。卒業論では、ノスタルジーをテーマにしたデザインや商品について考えてみようかと思っています。

Vol.97
NUA-OB
呂布カルマ

(りよぶ かるま)

ラッパー
JET CITY PEOPLE 代表

1983年 大阪府生まれ
2005年 美術学部デザイン学科イラストレーションコース卒業

■ MCバトル
SPOT LIGHT 2018 優勝
KING OF KINGS GRAND CHAMPIONSHIP 2018 優勝

大学を卒業後、フリーターを続けながらプロの漫画家を目指すも挫折し、本格的にラップを始める。名古屋市を拠点に活動する。2018年5月9日に、5枚目となる最新アルバム「SUPERSALT」をリリース。



誰だってできる時代

MCバトルイベントで華々しい戦歴を残し、ヒップホップ界で独自の存在感を獲得、全国区のTV出演などの仕事もこなしながら、名古屋を拠点に活動している。とりわけ高校生や20代に知名度が高く、栄辺りを出歩こうものなら、背後から写真を撮られたりすることもしばしばで、人の目を見られなくなったという。ヒップホップ、ならば音楽専攻かと思ったが、そうではなかった。漫画家になりたいくて、学生時代から作品を描いていたという。現在、本学では、音楽、美術、デザインが同じ芸術学部統合され、東と西で隔たりはあるものの、ある程度自由に授業を選択できるようになった。そんな選択ができる以前でも、創作の源が音楽である美術作品や、美術作品に触発されて作られた音楽は数多存在する。「イラストコースで、まったく音楽は関係なかったですね。在学中は漫画を描いてました。4年生のときに、プロになりたいくて応募用書き上げましたが、結局、1作しか描けなかった。卒業後、フリーター

になり、アルバイトしながら漫画を描く生活をしていましたが、もう一度作品を描こうと思っていたタイミングで音楽へ行ってしまうました。



どんな漫画を描いていたか? 聞けば、暴力が描きたかった。「今になって思えば、物語を描きたかったわけではなく、ただ暴力を描きたかった、戦っているシーンだけを描きたかったですね」高校を卒業したところでプロの漫画家のアシスタントに就き、漫画家になるつもりだった。ところが、大学に進学できるんだっいたらしたほうがいいと両親に勧められ、進学することにした。「そのまま行ったら漫画家になってましたね。大学の4年間、ふわっとした時間を過ごせたおかげで、音楽へ寄り道することができました。

音楽との出会いもユニークである。もちろん、学生時代からヒップホップは好きで、よく聞いていたそうだが、自分でやってみようとは思っていなかったという。「卒業してからクラブへ遊びに行くようになって、自





呂布カルマ
俺の勝手
<https://youtu.be/onTKv0A44PA>



呂布カルマ vs. aqua.
凱旋MC battle 東西選抜夏ノ陣
シード戦
<https://youtu.be/UbXTlyk7p4Y>



呂布カルマ vs ハノシキユ
凱旋MC battle 東西選抜夏ノ陣
2019 1回戦
<https://youtu.be/oiG8-JJ0s9E>



呂布カルマ vs Scooby J
凱旋MC battle 東西選抜夏ノ陣
2019 ベスト16
<https://youtu.be/Js-wYLNhmyU>



わかる人にはわかる謎の“木の棒”（笑）。
お話を伺ったときも、持ってきていました。
実際に手にしてみると、削ったわけでもないのに角が取れて意外なほど滑らか。何かしら宿ってます。間違いありません！



KOK UPDATE VOL.56
「KOK 2019 FINALIST NO.6
呂布カルマ」
<https://youtu.be/r19VDQjdsIc>



分でもやってみたくなって。ヒップホップは、いきなり人前でやるわけじゃないですか。それが面白くて。僕は漫画を描いていましたが、原稿を持ち込んだのではなく郵送したので、感想ももらっていない。漫画は、誰がどんなふう読んでくれたかもわからない。それに比べると、ヒップホップはいきなり人前だし、レスポンスもある。それが100倍くらい面白くて、速攻で漫画はどうでもよくなりました。こっちはだて！。



リズムによって繰り出される言葉が面白い。歯切れよく耳に快感をもたらすのもさることながら、その内容が興味深い。ヒップホップは、ポップスに比べ歌詞の言葉の量が多く、それだけ内容を詰め込むことができる。歌詞には、個人の、ひいては今の世のやるせない部分や暗然たる気分が歌い込まれている。漫画とヒップホップ、創作に共通する部分はあるのだろうか。「あまり意識していないですね。でも、根っこ部分は、同じかもしれません。漫画を描くと

きセリフを描きますが、そういうところでは共通するものがあるといえ、あるかもしれません。ただ、漫画はあくまでもフィクションですけど、音楽は自分のそのままを出しているの、そこは全然違いますね。

そして、独特の湿った言葉たちの源流は、ヒップホップだけではないという。「ヒップホップを聞くようになるまでは、ロックばかり聞いていました。ほかのヒップホップをやっている人たちとは、そこが少し違うのかもしれませんが。ヒップホップだけを聞いてヒップホップをやっている

人は、そこで使われている言葉だけで勝負しようと思います。僕がヒップホップを始めたのが22歳。ほかのラッパーは、10代で始めているのがほとんど。それまでロックばかり聞き、その歌詞に感銘を受けたり、言い回しを覚えたり。インプットする時間も長かったし、言葉を選ぶ嗅覚みたいなものが、ほかの人とは少し違っているのかもしれませんが。



音楽であれ芸術であれ、プロにならなくてやっていくことにセンスはいらない。ただ食べていくためだけな

ら、やる気さえあれば誰でもできるという。「プロになってメシを喰うことだけを考えるなら、やる気と人付き合いだけでやっていけると思う。どんなジャンルでも、寄り道せずにそこに向かっていけば、上手い下手なんて関係ない。どれだけやる気があるかだけ。でも、やる気と人付き合いで仕事ももらっているうちは二流。そうじゃないところを目指さないと。小間使いで終わるような人はいくらでもいる」。

必要な知識は、誰でも簡単に調べることができる時代である。知らなかったでは済まされない。できないことでも、調べてなんとかすることができる、誰でもなんでもできる時代だという。「この時代に落ちこぼれるアーティストがいるとするなら自分のせい」と手厳しい。と同時に、自分をどう見せていくか、自己プロデュースが必要だと話す。「自分は自分の価値がわかる人間。自信のない人は、相手に自分がどう写るかばかり気にします。自分に自信のある人は迷いが無い。傲慢なところもあるけど、それが成功してる人。大学生なら、自分はほかとどう違うのか、自分の武器みたいなものを4年間のうちにしっかり持っておくことが大事だと思います」 第一線で活躍する者の言葉には、聞かせるものがある。



1986年 福岡県生まれ
2008年 音楽学部音楽文化創造学科
サウンド・メディアコース卒業
2009年 サウンド・メディアコース 研究生
2010年 JET CITY PEOPLE, Studio NEST 立ち上げ



Studio NEST 代表。名古屋を拠点に、ヒップホップ、ロックをリリースするレーベル、JET CITY PEOPLE を呂布カルマと立ち上げる。

大学3年のとき、録音する人をネットで探して、名古屋で活動するラッパーに声をかけていました。当時、ラッパーで音源をネットで出している人ってあまりいらっしやなくて、一番目立っていたのが呂布さんでした。mixiにコミュニティがあって、メッセージを送ったのが最初。呂布さんとはmixiで知り合ったんです。

「ジオは、料金設定をあまり高くしてなくて、名古屋の10代の子なんか気軽に録りに来る、そうした感じで使ってもらえればいいかなど考えています」 JET CITY PEOPLEは2010年に設立され、これまでに20枚ほどのCDをリリースしてきた。CDの制作に加え、宣伝活動もすべて自分たちでこなし、PVなどの撮影も自分たちで行っている。「最近ではメジャーレーベルであることのメリットが全然なくなってきてるんですよ。リスナーもほとんどYouTubeやアーティストのTwitterなんかで情報を得ています。今からこの人を売りだそう、そういうときにメジャーのほうが優れている点が本当になくなっていきます」 そうした現代に、厳しいながらも可能性を感じているのは呂布カルマ氏とも共通するところ。どうやっていけばいいか、模索していくしかない。



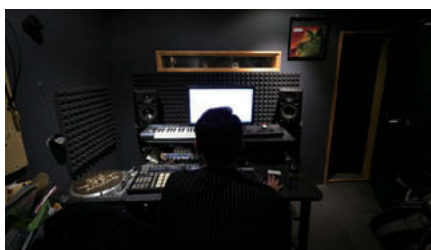
エンジニアという職業も変わってきているという。「技術的なことをいえば、3ヶ月くらいPCをいじっていれば、そこそこのクオリティのものが個人でもできるようにになりました。こだわれば、アナログ機材とかキリがないのですが、正直、リスナーには伝わらないというか、自己満足みたいなところがあります。技術的なことよりも、エンジニアにはアーティストと同じような感性が必要ではないかと思っています。エンジニアの仕事は、統一されてる基準みたいな価値観があって、そこまで仕上げるという考え方だったと思うんですけど、今はそこに個性を加えられる人が必要とされています。この人の音が出せる人。すべての基準をクリアした上で、色を付けられることが必要とされているのではないかと思います。その人の意図を汲んで、力になるという感じです」。

音楽に対する妥協のない姿勢と音楽市場への冷静な視点は、アーティストであり、制作者であるがゆえであろう。



スタジオの改装は、できる部分は自分たちで行い、できるだけ費用をかけるに済むようにした。「解体は、パールやハンマーで、自分たちでやりました。そのとき水道管を壊しちゃって、下のテナントへ謝りにも(笑)。壁の塗装も自分たちで塗りました」

アーティスト的な発想とセンスも必要



名古屋市内、栄の裏路地、雑居ビルの2階にあるStudio NESTにお伺いした。呂布カルマ氏のレコーディングも、このスタジオで行われている。スタジオになる以前は小さなスナックだったそうで、その頃使われていたとおぼしき、カウンター用の座面の赤いスツールが2脚。このあたりにカウンターやボトル棚があったのだらうと想像させる。

古川さんは、レコーディングエンジニアとして活動するほか、アーティストネーム 鷹の目として楽曲制作を行い、ステージにも立つ。呂布カルマ氏のトラックも作っている。「最近、裏方のほうが多いです。エンジニア志望で大学へ入ったので。もともと音を作っていて、自分でラップをやったりしていたこともあったんですけど、いざプレイヤーとしてステージに立つと、あまりそういうのは好きじゃない。人前で何かやるのは、あまり楽しいタイプではなく、裏方がやっぱりいいですね(笑)」。



小学生の頃からギターを始め、中学、高校とヘビメタ少年だったという。ユニークなのは、バンドを組むことよりも一人で弾くことのほうが好き、ギターを弾くことよりも音作りのほうに時間をかける、と興味が移り変わっていったこと。「アンプから出る音が気になるんですけど、バンドマ

ンはあまり気にしなかつたりしますよね。音作りにかかる時間がどんどん増えていき、そっこのほうが好きなんだと自覚するようになってきました」。

大学への進学を考えたとき、音楽のできる大学、しかも演奏家としてではなくエンジニアとして学ぶことができる大学、これが条件になった。「当時、名古屋芸大の設備は、NHK払い下げのレコーディング卓が入っていて、スタジオの設計もよく、たぶん名古屋では三本の指に入るスタジオなんですね。それが使えるというだけで志望動機になりましたね」 なんでも一人でやりたい完璧主義的なところがあり、「長江先生も把握していて、難しい奴やなと思っていました」と笑う。

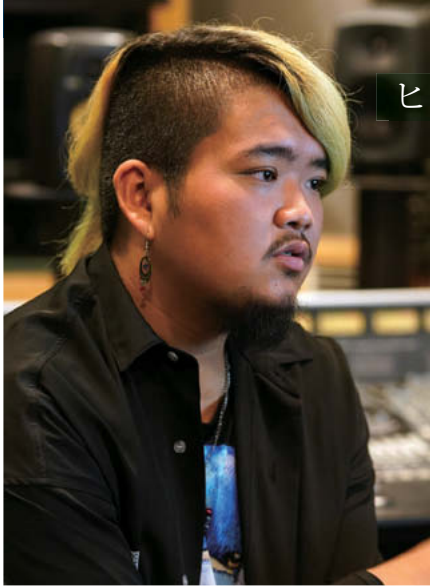
クラブへ通うようになると、CDをリリースせず、そこで終わってしまっているアーティストがたくさんいることに気付いた。CDや音源を何かの形でリリースし、そうした状況を変えたいという気持ちを持った。「当時は、今のようにレコーディングできる環境がなく、実際に録音する人もあまりいませんでした。大学3年の頃だったと思いますが、授業以外で友達バンドを録音していましたが、知り合い以外も録ってみたいくなり、名古屋で活動しているラッパーを探し始めました」。

そうして、呂布カルマ氏と出会う。



「スタジオ経営とレーベル、呂布さんやほかのラッパーのCDを出しているんですけど、比率としてはレーベルの仕事が若干多いです。スタ

ヒューマンビートボックスで日本一に



Vol.99
NUA-Student

稲熊悠人

(いなぐま ゆうと)

芸術学部 芸術学科 音楽領域
音楽総合コース 2年生

ヒューマンビートボックスの大会で優勝！ Loop Station部門っていうけど、どんな大会なの？

ヒューマンビートボックスについても教えて

大きく分けると、ヒューマンビートボックスとボイスパーカッションの2種類があります。もともとはヒューマンビートボックスと呼ばれていて、アメリカの黒人の遊びから始まったのだと思います。日本に入ってくるときに、わかりやすいようボイスパーカッションに名前が変えられました。なので、ボイスパーカッションは和製英語なんです。最初は呼び名が違うだけだったのですが、今では、ボイスパーカッションはドラムセットの音を真似るもので、ヒューマンビートボックスはもっと幅広い音を使っていて、一つの音楽のジャンルとして成り立っている感じです。ヒューマンビートボックスは、さらに種類が分かれ、マイク1本のパフォーマンス、2人組でやるもの、それ以上の人数でやるもの、僕がやってる機材を使ったLoop Stationと、ここ5~6年で急成長しました。

やり始めたのはいつなの？

中学2年生のときで、YouTuberのヒカキンが流行った時期ですね。ヒカキンがちょうどテレビとかに出て、あと、ハモネブ(アカペラのコーラスにスポットを当てたTV企画)もあって。その頃はまだボイスパーカッションしか知らなくて、しかもヒカキンぐらいしか知らなくて、真似してちょっとできるよになっただけなんですけど、高校2年生になってビートボックスの大会に出ている人と知り合いになって、その人にこっちの世界に引きずり込まれました(笑)。

ええ、じゃあ、ビートボックスがやりたくて音楽総合コースへ？

大学はビートボックスに関係ないですよ。作曲とレコーディングの技術が欲しくてです。自分のレコーディングとかできますし、もちろん人の録音することもできます。このスタジオを使いたくて、それ目的です。



DICE (KR) vs Hoguma (JP)
Asia Beatbox Championship 2019
SEMI FINAL LOOPSTATION BATTLE
<https://youtu.be/br3PnY0sL4I>



MixIM
動画予選
Hoguma
<https://youtu.be/pfVWounfnQQ>



Hoguma/Asia BeatBox
Championship 2019
Loopstation
battle wildcard
<https://youtu.be/tr-v11StV54>



BOSS
Loop
Station
RC-505

演奏や歌のフレーズを録音し、ループ再生する機材。5チャンネルあり、それぞれにエフェクトを加え重ねて再生し音楽を作ることができる。Loop Station部門はこのRC-505を使って行われる

作曲とレコーディング、そういえばカレイドスコープにも出てたよね？

あのときは作曲で。でも、ビートボックスでこの機材(BOSS RC-505)を使って演奏しましたね。全部ひとりで、口から出る音だけで作りました。声をサンプリングしてエフェクトをかけ、ベースラインがあつて、コーラスがあつて、ドラムもあつて。打ち込みの作曲もたまにしたりしてるんですよ。本当はそっちを学びたくて総合コースに入ったんですけど！

でも、ビートボックスのほうが主になる(笑)

親に、大学生のうちに日本一になると宣言しちゃったので。大口をたたいていたので、とりあえず大会に出なきゃと。去年の8月、日本で初めてのLoop Stationの大会があつて、Loop Stationを始めて半年ぐらいだったんですけど優勝して、変に自信がついて、公式、非公式、いろんな大会にエントリーするようにしました。日本ヒューマンビートボックス協会の日本一決定戦があつて、予選では勝ったものの、対戦の1戦目で負けてベスト8だったんです。それが悔しくてアジア大会にエントリーしたら、そこで日本代表に選ばれて、アジア大会でベスト4になりました。帰って来てすぐに、今度は、Loop Station × DJバトルのイベントがあり、その大会で優勝し日本一になりました。日本一になるという大学での目標は達成できました。ただ、アジア大会のベスト4が微妙なところで、そこにちょっと悔いが残っていますね。それでアジア大会には来年も出たいなと。来年はもう少し良い成績を残したいと思っています。

大会は日本各地であるようだし、アジア大会は台湾だったんでしょ？ 遠征にお金がかかるね

かりますね。日頃から節約節約です。友達と遊ぶときや、もちろん大会の遠征も、機材のメンテナンスも、そういうところでお金をケチりたくはないんですけど、ひとりで生活しているときは1食30円とか(笑)。

どうやって!? ひとり暮らしだよな？

そうです。うどんとか焼きそばとか、スーパーでひと玉15円ぐらいで売ってるじゃないですか。あれですよ。1年生のときは実家から通っていましたが、曲のアイデアが浮かんだときにすぐに試したくて、ひとり暮らしを始めました。今なら、思い

ついたらすぐに帰って試して学校へ戻ってくるというのが、昼休みの時間でもできるようにしました。

曲はどんなことを考えて作るの？

大会のためには3分にしなければならなくて、その3分の中で起承転結がないといけななんです。自分で大事にしているのは、起承転転結と、承と転を2回作るようにしていることです。個人的にはEDM(Electronic Dance Music)の低音系の音が好きで、毎日ひたすら聴きまくってます。少しでもいいなって思うところがあると、その部分をこう変えてとかいろいろ考えて保存して、ずっと聞きながら機材をいじる、そんなことをやっています。

曲のオリジナリティーについては、誰もが同じようなことをするので、似かよってきます。いってしまえば、同じ機材を同じように使っているの、音も同じなんです。そこにどうやってオリジナリティーを出していくかというのが難しく、音じゃなくて構成を変えろとか、その人らしさをどこかに作っていかねければなりません。ただ、いくらそれを突き詰めても、まわりに認められなければ意味がないんですよ。自分がこれはオリジナルだといつても、ほかの人が聴いて、これは誰々のパクリでしょといったら終わりです。自分が思っているのではなく、他人に評価されて初めてオリジナルになるのだと思っています。

いろいろな音楽から影響を受けながら作るようにしています。EDMが好きといっていますが、音楽を作っているだけで、聴くのはいろいろなジャンルなんです。そもそも音楽を聴くことが好きなので、それほど意識して聴いているわけではないんですけどもね。

YouTube見ると、英語で自己紹介してるよね。英会話できるの？

英語は少ししか出来ないです(笑)。自己紹介は、定型文的なものがあって、それを真似てです。でも、ビートボックスの世界は英語を話せないと生きていけないので、英語のできる人が案外多いんです。その人たちに教えてもらいながら話している感じです。アジア大会のときも、できる人に教わりながら。対応に困ったら、とりあえず音出してセッションすればいいかなって。わりとそんな感じで乗り切りました。

今までも前を向いてしっかりやっていたというタイプではなかったんですけど、後ろを向いてみると、メインストリームを進めるために捨てられたというか、留保されているかけらがいっぱい散らかっています。それをもう一度拾いながら、後ろを見ながら前に進むみたいな、制作もいいかなと思っています



「肌裏の言葉」(習作)
絹本、和紙、天然岩絵具、墨
2018年

マスター ↑↓to アーティスト

【第46回】

< 合う、離れる >



米山より子

(よねやま よりこ)

デザイン領域

メタル&ジュエリーデザインコース 准教授

1958年	埼玉県生まれ	1987~89年、1991~96年、
1981年	東京藝術大学美術学部工芸科卒業	2018年 愛知県立芸術大学非常勤講師
1983年	東京藝術大学大学院 美術研究科彫金専攻修了	1995~2007年 東京デザイナー学院名古屋校 非常勤講師
2019年	愛知県立芸術大学大学院 日本画領域研修生修了	愛知県立高等技術専門学校 非常勤講師
		1996~2006年 非常勤講師
1983~86年	河合塾美術研究所非常勤講師	2001~03年 日進市生涯教育講座講師
1985~89年、	NSCカレッジ名古屋ファッション専門学校	2006~15年、
2005年~	非常勤講師	2017~18年
1986~95年	国際医療管理専門学校非常勤講師	2013~16年 名古屋デザイナー学院 非常勤講師



西キャンパスの中でも一番西側のC棟にある真新しい研究室。メタル工房、セラミック工房の2階に設けられたこの研究室は、これまで院生が使っていた部屋で、この4月に改装されたばかり。簡素な空間にはまだ梱包を解かれていない荷物もある。そして、白い壁には、儂げに見える、しかし確かな存在感のある作品が飾られている。

漂白されていない自然な和紙の色。生成りよりも、さらに黄色みが強く、ものによっては年代を経た象牙のように、さらに深みのある色合いを見せる。ひとつひとつが異なった肌合いを持ち、縮れた皺が規則正しい布の織りを感じさせるものもあれば、まるで脱皮した爬虫類の皮を連想させるようなものもある。それらが、空調の流れに合わせて、震えるように揺れている。「手漉きの和紙って面白いんですよ。天日干しな

んですが、晴れた日に干すと白、曇りの日だと黄色くなるんです。漉いた時の天候で、全部色が違うんです。奈良の福西和紙本舗さんの和紙なんですけど、原料のこうぞもご自分の畑で栽培しておられて、作物なので年によって違いますし、手で触った感触もひとつひとつ違ってきます」。

作品は、和紙を湿らせ、よく水分が染みこんだところで指で引っ張り、紙が切れるすんでのところで止め、曲面や立体としての調子を作り出したもの。濡れている時に作られた形は、乾いていく過程で繊維の結びつきが固定され、そのままの形を留める。「これは、金属の鍛金技法と同じなんです。金属の板を熱して分子構造を変え、叩いて形を作りますが、これは火の代わりに水を使い、形状を変えられる状態にして徐々に形を作っていく。大学時代に学んだ技法の応用です」。

「子供の頃は、さほど美術は好きではなかったんです」美術鑑賞が趣味だった父親に連れられ幼い頃から毎年の日展や美術展を見に行っていた。しかし、関心は専ら帰りに寄るアメ横の寿司や鰻だったと笑う。小学生の頃は、

自宅で本を読んでばかりいる子供だった。現在なら、登校拒否や不登校といわれてしまうだろうが、当時はもう少し社会も緩やかだった。学校へ行くことを厳しく諭されたわけではなかったというのが、親には苦勞をかけたと話す。

美術に関心を持つようになったのは、高校生になり進路を考えたとき。小学生の頃から数学が苦手で、自分にできそうなことを絞っていくと美術に辿り着いた。予備校に通うようになり、毎日、終電までデッサンに励んだ。「1年浪人して、朝は始発の電車で予備校へ行って、帰りは終電。帰ってからは平面構成をやって、机に打って伏して寝てしまい、そのまま朝になり出かけるような生活をしていました。予備校の先生には、彫刻に向いているんじゃないかといわれましたが、当時女子はほとんどおらず、友達がいるところがいいなとデザイン科を選んでいました。ですが、デザインで受験となると数学があり、それで工芸科にしたんです。主体的に選んだんじゃないんですよ」。

大学では伝統的金工技法を学んだが、70年代後半はコンテンポラリーアートの全盛期。既存の価値を解体しコンセプトを構築して作



「Chiaki」和紙、絹糸
W450×D450×H1,100 2004年
"nowhere now here"
サロンギャラリー余白 愛知

「Yuka」和紙、絹糸
W450×D450×H1,100 2004年
"nowhere now here"
サロンギャラリー余白 愛知



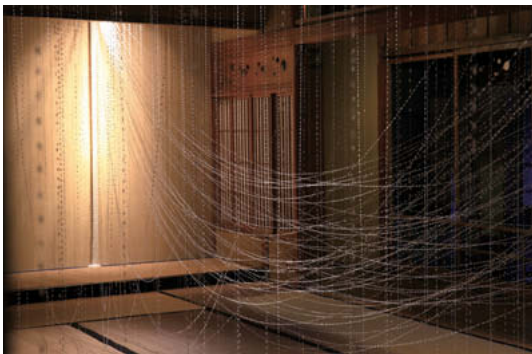
「Naomi」和紙、絹糸
W450×D450×H1,100 2004年
"nowhere now here" サロンギャラリー余白 愛知



「ふざいのそんざい」
和紙、絹糸 2007年
Gallery Gallery 京都



アイデアを関連づけてつなげる
ということは学生時代に学んだ
ことかもしれませんね。デザイン
的な考えかもしれません。横断
的にいろいろなものを使って創
出することが大事です



「こめのゆめ」米、絹糸 2014年
"ほどかたち よむこころ" 古川美術館為三郎記念館



「にわたづみ」2014年
"ほどかたち よむこころ" 古川美術館為三郎記念館

- 1985年 ■個展 Graphic Station(東京)
- 展覧会「日本オブジェ展」PARCO賞受賞
渋谷パルコギャラリー(東京)
- 1988年 ■個展 スペース・デ・アウバ(愛知)
- 個展「かみさまはそほくだ」
池袋西武アトリエ・ヌーボー(東京)
- 1995年 ■展覧会「名古屋に来た7人のアーティスト」
名古屋市文化振興事業(愛知)
- 2003年 ■展覧会「和紙と作家展」サロンギャラリー余白(愛知)
- 2004年 ■展覧会「nowhere now here」
サロンギャラリー余白(愛知)
- 2005年 ■展覧会「紙は今2005」京都工芸繊維大学(京都)
- 2006年 ■個展「米と紙と水」ハートフィールドギャラリー(愛知)
- 展覧会「和紙と作家展」サロンギャラリー余白(愛知)

- 2007年 ■個展「ふざいのそんざい」Gallery Gallery(京都)
- 展覧会「きのあうところ」長久手町アートフェスティバル(愛知)
- 2009年 ■展覧会「こめのゆめ」ベネロープ・パリ・ペティオン(愛知)
- 2010年 ■個展「こめのゆめ2010七ツ寺共同スタジオ地熱の荒野」
Aichi Triennale 共催(愛知)
- 展覧会「コラボ展示・生け花インターナショナル」
ヴィアスフ宮殿博物館(Poland)
- 2011年 ■個展「ポジジョン2011ほどかたちつむぐけしき」
名古屋市美術館地下1階1室(愛知)
- 個展「日伊地震復興支援コンサート」
ラクイラ・アルフレドガゼラコンサートホール(Italy)
- 2013年 ■展覧会「天上の祝宴」翔風館(愛知)
- 展覧会「Cloth & Memory 12」
イギリス世界遺産 Salts Mill(U.K.)

- 2014年 ■展覧会 古川美術館為三郎記念館特別展
「つむぐけしきよむこころ米山和子・祖父江加代子」
ESD国際エネソ会議パートナーシップ事業(愛知)
- 2016年 ■個展「ほどかたち-Plasticity」Gallery 数寄(愛知)
- 個展「ゆりかごのうた」Gallery Noivoi(愛知)
- 展覧会「ポジジョン2016」名古屋美術館(愛知)
- 展覧会「Dojima River Awards 日本画」入選
堂島リバーフォーラム(大阪)
- 2018年 ■展覧会「Cross-Textiles」
サン・ティエニス国際デザイン・ビエンナーレ OFF
(France)
- 展覧会「和紙素材の研究展」韓国展(Korea)
- 2019年 ■「現代美術の視点2019」極小美術館(岐阜)

品を作る先生や先輩に影響を受けて傾倒しながらも自分は作品とどう向き合っていくべきかわからなくなった。「受験という目的があった予備校時代はそれに向かってまっしぐらでしたが、大学へ入ると自分の好きなことをすることになります。それで逆にすごく悩みました。社会的な概念の破壊という大きな物語より、もう少し個人的な所に感受性がある自分はそれを出しても良いのか、すごく心もとない時代を過ごしました。

そんなおり、出会ったのがクレス・オルデンバーグの「ソフト・ドラマ・セット」という作品。一連のソフトスカルプチュアシリーズのひとつで、織物やゴム、ラバーなどを使った柔らかな立体作品である。「頭では理解していたのですが、実物を見て初めて好きにやっって良いのだと思いました。硬い金属で表現するだけでなく、本当に柔らかいものを使ってもいいんだと。硬いものであるべきドラマセットが、柔らかくキュ

ートにも感じて、涙が出てきました」。

そして和紙に出会う。「縁あって和紙を使う作品を作ることになったのですが、紙を見せてもらうとそれ自体が完成されていてこれ以上加えるものがないと思いました。そして後ろを向くように製造工程を遡り、水に浸けて紙をほどくことを考えました」 繊維と繊維が絡み合い接合することで和紙は成り立つ。和紙をほどいていくと、それを作るまでにどれほどの手間と大量の水が必要だったか、頭で想像する以上に理解することができた。木の繊維を煮て水に浸け木槌で打ち、細かくした繊維をネリ(植物の根から採取した粘液)とともに水に入れて紙を漉き上げる。膨大な水と時間が集まり和紙ができる。「私にとって和紙をほどくことは繊維のくつつき方を理解する手がかりになり、「合う」と「離れる」は同じ源泉からきているのかもしれないと考えるきっかけになりました。人生も、自分一人で生きてきたつもりでもいろいろな「合う」で、自分ができ上がっているのではないか

と」。

「和紙を使うことで米糊を知り、書や絵や掛け軸を知り、そこから自分を取り巻いている暮らしや自然はみな関係し、つながっていると思うようになりました。制作も、作品作りを人生の中心にすえストックに作家としてやっっていくことも大事ですが、自分のまわりの生活、家族や生活環境も含めた中で制作を続ける道もあります。いろいろなことをひとつくりに合わせて、細かいけど長く作品制作に関わっていきたいと思っています」。

作品に共通しているのは、素材に聞いて作業をすること。「学生時代、金属の温度は色で見て、硬さは音で聴くように、素材に聴いて心を添わせると学びました。和紙の水分は目と指で聴きます。素材が丁度良い時を教えてくださいその時に制作します」 工芸の伝統技法を学んだことが、今の制作に役立っているという。

2019年度 音楽領域演奏会スケジュール(予定)

[2019年]11月

第42回定期演奏会

日時/2019年11月14日(木) 18:00開演予定
会場/三井住友海上 しらかわホール
入場料/無料(全自由席 整理券あり)

12月

Earth Echo 電子オルガン第22回定期演奏会

日時/2019年12月5日(木) 18:30開演予定
会場/熱田文化小劇場
入場料/無料(全自由席)

室内楽の夕べ2019

日時/2019年12月10日(火) 17:30開演予定
会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
入場料/無料(全自由席)

名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団

第3回定期演奏会「第九」(仮称)

日時/2019年12月19日(木) 18:30開演予定
会場/愛知県芸術劇場コンサートホール
入場料/入場料未定

[2020年]1月

名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団

第4回定期演奏会(仮称)

日時/2020年1月31日(金) 18:30開演予定
会場/愛知県芸術劇場コンサートホール
入場料/入場料未定

2月

第18回 歌曲の夕べ

日時/2020年2月7日(金) 18:30開演予定
会場/熱田文化小劇場
入場料/無料(全自由席)

研究生修了演奏会

日時/2020年2月13日(木) 18:00開演予定
会場/熱田文化小劇場
入場料/無料(全自由席)

ミュージカル公演 フェアリーテールズ(予定)

日時/2020年2月19日(水) 18:00開演予定
会場/名古屋芸術創造センター
入場料/500円(全自由席)予定

大学院音楽研究科特別演奏会

日時/2020年2月20日(木) 18:00開演予定
会場/名古屋芸術大学東キャンパス 音楽講堂
入場料/無料(全自由席)

ピアノのしらべ 第24回 春のコンサート

日時/2020年2月27日(木) 17:30開演予定
会場/熱田文化小劇場
入場料/無料(全自由席)

3月

第47回卒業演奏会

日時/2020年3月6日(金) 17:00開演予定
会場/三井住友海上 しらかわホール
入場料/無料(全自由席 整理券あり)

ジャズポップス卒業演奏会

日時/2020年3月7日(土) 15:00開演予定
会場/名古屋芸術大学東キャンパス 音楽講堂
入場料/無料(全自由席)

第22回大学院音楽研究科修了演奏会

日時/2020年3月10日(火) 18:00開演予定
会場/三井住友海上 しらかわホール
入場料/無料(全自由席 整理券あり)

オペラ公演 歌劇「フィガロの結婚」

日時/2020年3月14日(土) 開演時間未定
会場/西文化小劇場
入場料/入場料未定
日時/2020年3月15日(日) 開演時間未定
会場/西文化小劇場
入場料/入場料未定

※予定につき変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。

●お問合せ先/名古屋芸術大学 演奏課
Tel. 0568-24-5141

チケットお取り扱い場所

●名古屋芸術大学 演奏課
Tel. 0568-24-5141
●名古屋音楽学校
Tel. 052-973-3456
●愛知芸術文化センター
B2Fプレイガイド
Tel. 052-972-0430
●ヤマハミュージック
名古屋支店プレイガイド
Tel. 052-201-5152
●カワイ名古屋
Tel. 052-962-3939
※一部取り扱いのない
公演がございます。

2019年度 オープンキャンパス日程

2020年3月1日(日) 10:00~16:00

※卒業制作展と同時開催

ミニオープンキャンパス

2019年11月2日(土)・3日(日)

【開催場所: 本学両キャンパス】※芸大祭と同時開催



アート&デザインセンター 2019年度 展覧会スケジュール(予定)

10/25(金)~10/30(水)
11/ 1(金)~11/ 6(水) ●美術領域 企画展(予定)
11/ 8(金)~11/13(水)

11/15(金)~11/20(水) ●MCDデパートメント2019

11/23(土)~11/27(水) ●東南アジア・インドネシア・マレーシア交流展

11/29(金)~12/ 4(水) ●メディアデザインコース展

12/ 6(金)~12/11(水) ●こどもと絵本の空間
●後期交換留学生作品展

12/13(金)~12/18(水) ●洋画コース2・3年選抜展

12/20(金)~12/25(水) ●工芸展

1/ 6(月)~ 1/ 9(木) ●書道アート展6



※会期・内容は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。
【入場無料】どなたでもご覧いただけます。
お問い合わせ先 / (0568) 24-0325
Open/12: 15~18: 00 (最終日は17: 00まで)
木・日曜日休館

平成30年度名芸大生夢サポート募金について

「学生のために」という視点から始まった「名古屋大生夢サポート募金」も7年目を迎えました。寄附金は合計1,643,000円でした。温かいご支援をいただき、誠にありがとうございました。皆様からの寄附金の使途についてご報告申し上げます。

1 寄附金の使途別状況(平成31年3月31日現在)

(単位: 円)

寄附金の使途	平成30年度 寄附金額	前年度 積立金額	平成30年度 使用金額	活用状況
1 学生に対する奨学金	103,000	0	103,000	在学生から申請があり、奨学金総額の一部として使用。
2 音楽活動支援事業	1,020,000	50,000	350,000	オペレッタ「メー・ワイドウ」の演奏会費用の一部として使用。
3 制作活動支援事業	32,500	625,132	22,500	彫刻コースの卒業制作モデル代補助として使用。
4 子ども教育活動支援事業	0	50,000	0	平成30年度は寄附金支援申請がありませんでしたので、平成31年度以降に各使途別の事業に使用させていただきます。予定です。
5 芸術的素養習熟支援事業	38,000	334,000	0	
6 キャリア支援事業	0	380,000	0	
7 グローバルな学生を育成するための学生企画の支援	207,000	5,000	212,000	そのまなま中学校、そのまなま中学生」の懸賞金として使用。
8 その他、学生支援の充実を図る事業	242,500	0	199,230	ローターアクトクラブ認証伝達式等関連費用/合宿交通費として使用。
合計	1,643,000	1,444,132	886,730	

2 夢サポート募金対象別状況

(単位: 円)

募金対象	寄附金額
1 卒業生	5,000
2 在学生の保護者	30,000
3 教職員・役員 (退職者を含む)	1,538,000
4 その他 賛同する 個人・法人・団体	50,000
合計	1,623,000

3 夢サポート募金寄附者について

平成30年度にご寄附いただいた方々は82名、1法人です。

○ご芳名(※50音順 敬称略)

〈個人〉

安部孝、有川早紀、石田聖一、伊藤貴啓、井上雄太、太田成夫、大久保義美、岡 由美子、岡崎良信、岡田卓哉、奥田治人、奥村賢史、奥山正一、面手紀江、加藤貴彦、河合祐、川瀬達治、菊地淳、梶田美香、可知奈尾子、

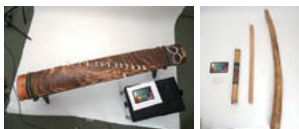
金子敦子、鎌倉博、上田浩司、久野真一、久保博満、河野真奈美、酒井宏明、澤木美樹、澤脇達晴、白川孝男、菅原美枝子、杉田孝子、鈴木岩雄、高木宏子、高木直喜、高橋正実、竹本義明、田中剛、坪井靖子、東條文治、戸田恵、豊田和子、中沖玲子、中村恵美子、中山周、橋本裕明、橋本博文、服部亜耶、早川知江、春名和博、平塚一磨、平野春吉、平光琢也、舟橋のり、牧野恵美、松波千津子、松實輝彦、松本博仁、三川和泉、溝口哲夫、南元子、茂登山清文、森明宏、森泉博行、安井美保、山田加代子、山田純、吉田寿一、吉村美由紀、依田嘉明

〈法人〉
富士工管株式会社

なお、ご芳名の公表をご辞退された寄附者の皆様に対し、この場をお借りして、御礼申し上げます。

表紙の写真

本学東キャンパス6号館楽器倉庫に機材を持ち込み撮影。音楽ケアデザインコースの皆さん、長時間の撮影にご協力いただきありがとうございました。



「名古屋芸大」
グループ通信
ウェブサイトを



発行: 名古屋芸術大学
企画・編集: 広報企画部
デザイン・協力: くまな工房一社
印刷: 株式会社クックス
発行日: 2019年10月31日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 広報企画部
〒481-8502
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
電話 0568-24-0359
FAX 0568-24-0369
E-mail: grouptu-shin@nua.ac.jp



※記事中のホームページアドレスは、掲載先の諸事情で移転や閉鎖されている場合がございます。あらかじめご了承ください。